

柚木の

お天白さん

平成十一年九月五日号

富士駅北地区の柚木に天白神社てんぱくがあります。地域の人々からは「お天白さん」と呼ばれています。

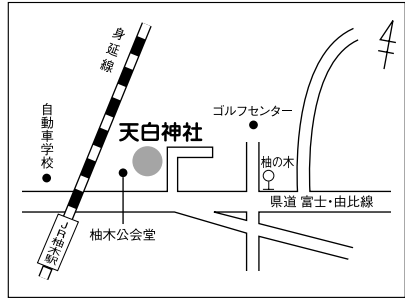
今回は、この柚木の「お天白さん」についてご紹介します。

養老年間（奈良時代）のことです。ある年、柚木村の初穂田はつほだという田んぼに、とつても大きな米粒が三粒、天から降ってきました。米粒の大きさは、長さ一寸八分といえますから今でいう約六センチメートルになります。

村の人たちは、「不思議なことがあるもんだ。きつと、この土地はお米の神様と関係があるに違いない」と米粒の一つを祭って、天白神社と名づけた社やしろを建てたそうです。そして、残りの米粒は、米之宮浅間神社と出雲

大社に奉納したということです。

また、天白神社の横には、昔、大きな池があつて、人々は「天白池」と呼んでいました。この付近にひでりが続くと、村の人たちは、この池で雨ごいのお祭りを行いました。すると急に天空に黒雲がわいて、雨が降ってきたということです。天白神社は、お米の神様を祭っているということから、ひでりで作物が



とれないと、百姓たちがかわいそうだというので、神様が雨を降らせたのでしょうか。

柚木にお住まいの 小中良一さん

今では米粒は残っていませんが、昔からの地域ではお米がとれたということから、この話が伝えられているでしょう。

天白池の水は、昔飲み水として利用されていたようです。水はいつか乾き、池は杉林にかわってしまったようですが、杉林によく牛がっながれていたのを覚えています。

また、昭和七年までは境内に飛行機松といって、富士山の頂上からも見えるほどの大きな松が二本ありました。樹齢千年を越す松だったのですが、本殿を修復するのに木を切ってしまったおうかと、地域の人たちと相談していたところ、突然枝が折れてしまったのです。とても不思議なことでしたね。



▲ 天白神社

私が子どものころは、学校の行き帰りにみんなで神社に寄ってよく遊びましたね。地域の人たちもよく集まってきてにぎやかでした。今でも毎年十月十七日前後の土曜日または日曜日に、盛大にお祭りを行っています。